

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
令和5年度 分担研究報告書
全国規模の肝炎ウイルス感染状況の把握及びウイルス性肝炎 elimination に向けた
方策の確立に資する疫学研究

BMP9 発現抑制と門脈肺高血圧症の病態の解明に関する研究（中間報告）

研究協力者 厚川正則 日本医科大学消化器肝臓内科 准教授

研究要旨

日本人の PoPH 症例における血清 BMP9 値の臨床的意義を明らかにするべく研究を継続中。現在肺高血圧モデルラットを作成した。

A. 研究目的

門脈圧亢進症に伴う肺動脈性肺高血圧症(PoPH)がある。疫学的には欧米では自己免疫性肝炎に多く合併することが知られているが、近年日本を含むアジアにおいては C 型あるいは B 型肝炎による肝硬変患者に多く見られることも報告されている。我々は本年、630 例の肝硬変患者における PoPH のリスク因子として、息切れの自覚症状あり、女性、BNP 高値が重要であることを報告した(Hepatology International. Atsukawa M et al.2023)。この研究により背景肝においては既報通り自己免疫性肝炎や原発性胆汁性胆管炎の患者に PoPH の頻度がおおいのものの、他の B 型 C 型肝炎や脂肪肝の患者と有意差を認めなかった。よって、本邦においては自己免疫性肝炎などに限定せずウイルス性肝炎患者においても PopH のスクリーニングが必要であると考ええる。

B. 研究方法

日本人の PoPH 症例における血清 BMP9 値の臨床的意義を明らかにするべく症例の収集と血清確保ならびに ELISA を施行中。

現在神戸大学の循環器内科と共同で肺高血圧モデルラットを作成した。

C. 研究成果

未到達

D. 考察

未到達

E. 結論

次年度は実際にこのモデルマウスを使用して PoPH の病態解明に関する継続を施行していく。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

Risk factors for portopulmonary hypertension in patients with cirrhosis: a prospective, multicenter study. Atsukawa M, Tsubota A, Kondo C, Koyano KS, Ishikawa T, Toyoda H, Takaguchi K, Watanabe T, Matsuura K, Ogawa C, Hiraoka A, Okubo H, Tateyama M, Uojima H, Nozaki A, Chuma M, Kato K, Mikami S, Tani J, Morishita A, Kawata K, Tada T, Furuichi Y, Okubo T, Kawano T, Arai T, Kawabe N, Kawamura N, Ikegami T, Nakamuta M, Shigefuku R, Iwasa M, Tanaka Y, Hatano M, Iwakiri K.Hepatol Int. 2023.

2. 学会発表

JDDW2023 シンポジウム 塩田香織、厚川正則、岩切勝彦

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

